

地震に備えるために知っておきたいこと。

地震がおきる前に調べてみよう。

「地震」に備えて何をしたらよいのでしょうか。

×あぶないこと

- お落ちてきそうなもの
- 家の中にとじこめられないように
- 道をふさがりそうなもの
- 物やわれたガラスなどでけがをしないように

○備えること

- 避難に必要なもの
- 家具が倒れないように



地震がおきたときに「あぶないところ」と「安全なところ」をふだんから家族みんなで話し合っておきましょう。家の中や学校への通り道に、あぶなくなりそうなどころはありませんか？上の絵を見て、地震のときにあぶなくなりそうなどころをさがしてみましよう。

あわてずに行動しよう！

大きな地震がおきたら...

- 学校**にいたら？先生のいうことをよく聞いてつくえの下などにかくれて身を守ろう
- 家の外**にいたら？ブロックべいなど、たおれたりおちてきたりするものからはなれよう
- 人がたくさんいるところ**にいたら？あわてて出口に走り出さず、係の人にしがいておちついて行動しよう
- 電車・バス**にのっていたら？急ブレーキにそなえて、手すりなどにしっかりつかまろう

学校にいるときに地震がおきて、強いゆれがきました。そのとき、あなたは どうしますか？左のイラストは、地震の強いゆれから身を守る行動の例です。しんちゃんも防災ずきんをかぶり机の下にかくれています。このように頭を守るとは大切です。強いゆれがおさまるまで、このままです。

家の外では、ブロックべいが倒れてきたり、看板や窓ガラスなどが落ちてくるかもしれません。あぶないところからはなれよう。あぶないところからはなれよう。あぶないところからはなれよう。

その他にもいろいろな場面での行動を考えると、よい方法をみんなで考えてみましょう。

©日井儀人/双葉社・シンエイ・テレビ朝日・ADK
リーフレット「緊急地震速報って知ってる!？」(気象庁)より

行動のポイント

- 緊急地震速報を見聞きしたら、すぐに身を守る行動をとる。
- いきなり強いゆれがくるときもある。ゆれを感じたら、すぐに身を守る行動をとる。
- 地震による強いゆれは、とても長く続くこともある。その間は身を守る行動をとり続け、ゆれがおさまってから落ち着いて行動する。

「避難訓練の様子」のビデオを見て訓練を繰り返し行いましょう

東日本大震災では、地震・津波避難訓練を繰り返し何度も行った学校で全員が助かった例がありました。

いつ起きるかわからない地震に対して、教室だけでなく、学校のあらゆる場所、登下校中、家庭内などにおいて、身を守るためにどうすればよいか、行動を考えて繰り返し訓練し、身に付けることが大切です。

このビデオは、三重県尾鷲市立宮之上小学校で行われた地震津波避難訓練の様子です。気象庁ホームページにのっていますので、ぜひ参考にしてください。

津波からにげる さがす

ビデオの長さは4分程度で、避難訓練のポイントが示されています。



2018年	1月10日	水曜日
平成30年		
福岡管区気象台	〒810-0052	
防災調査課	福岡市中央区大濠 1-2-36	
電話	092-725-3614 (記事) 092-725-3600 (天気相談所)	
メール	fk-kanku@met.kishou.go.jp (ご意見・ご要望はこちらまで)	

地震のQ&A

Q: 避難に必要なものはどこに置いておくのがよいでしょうか？

どちらかをえらびましよう。

① 玄関のちかく
② 押入れの中

A: ①番

【解説】
避難に必要なものは、すぐに持って出かけられるように玄関のちかくに置いておきましょう。

また、準備したものはリュックの中に入れておくと、避難のときに両手が使えるので便利です。



気象情報へのアクセス

パソコン・スマホ から

気象庁 検索

携帯から

防災情報 検索